

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	言語と文化	
<b>科目基礎情報</b>						
科目番号	0001		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	エコデザイン工学専攻		対象学年	専2		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	授業担当者作成の教材・資料					
担当教員	足立 繭子					
<b>到達目標</b>						
<p>1. 現代評論の読解を通じて、言語の機能や性質について理解し、説明できる。</p> <p>2. さまざまなテキストの読解を通じて、世の中には多面的な文化や価値観があることを認識し、同時に、自己の拠って立つ文化や価値観の何たるかを、特に言語に着目することによって深く認識し直すことができるようになる。</p> <p>3. 近代以降、現代に至る日本人が喪失しつつある、言語との密接な関係性について、自分なりの問題意識や考えを持てるようにする。</p> <p>4. 日本の古代のことばの分析を通じて、伝統と革新から成る文学表現の歴史を認識する。</p>						
<b>ルーブリック</b>						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
テキストの読解	教材の文章中の学術用語や語彙を用いて、日本の古代のことばの特徴について、文章で自分の考えを説明できる。	資料の学術用語・古文の語意や文法を理解した上で読解ができ、テキストの内容を説明できる。	資料や古文のテキストに出現する語意や文法について、説明できない。			
古典の文学史的な知識や古代の時代習俗についての理解	テキストに関わる文学史的な知識や時代習俗に基づき、古代のことばを取り巻く状況と、現代との違いについて、文章で自分の考えを説明できる。	それぞれのテキストの文学史的な知識や、背景となる時代習俗について、説明できる。	テキストに関わる文学史的な知識や時代習俗について、説明できない。			
<b>学科の到達目標項目との関係</b>						
学習・教育到達度目標 B-2 学習・教育到達度目標 C-1 JABEE 1(2)(a)						
<b>教育方法等</b>						
概要	現代語の評論の読解を通じて、「言語とは何か」について理解した後、日本の古典文学の具体的なテキストをいくつか読解し、掛詞などの古代語に特徴的なことばの分析を通して、人間とことばとの関わり方の深さについて、理解を深める。そして、こうした人間とことばの関わり方の深さが、現代においては失われつつあることについて、自分なりの問題意識を持って考える。					
授業の進め方・方法	担当者による講義、演習 理解度を確保する確認テストを適宜実施することがある。 事前に授業内容を予習することや、事後に復習としての課題に取り組むことが求められる。					
注意点	テキストのいくつかは古文だが、現代の理系学生の読みやすさを考えて、現代語訳をはじめ、さまざまな形での参考・補助資料を提示するつもりである。恐れず、諦めず、古代のことばと、じっくり付き合っ、具体的な事物と人間の心とが緊密に関わり合っている古代のことばが、慌ただしく消費され、すっかり人々の信頼を失いつつある現代のことばとは違っていることを実感してほしい。そこから、私たちが今後どのようにことばと付き合ってゆけばよいのかが見えてくるはずである。学修単位のため、60時間相当の授業外学習が必要である。(授業外学習・事前: 授業内容を予習する。授業外学習・事後: 週ごとの到達目標に記された授業内容に関する課題に取り組む。課題のいくつかについては、レポートとして評価する。) なお、学生の理解度により、適宜授業計画は変更されることがある。また、成績評価はレポート課題を主とする。					
<b>授業の属性・履修上の区分</b>						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
<b>授業計画</b>						
	週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス ／「言語とは何か」①鈴木孝夫「ものことば」		授業の目的、進め方、評価方法などについて、理解し説明できる。／現代の評論の読解を通じて、「もの」と「ことば」の関係・「ことば」と世界認識の関係について理解し、言語の機能や性質について説明できる。 授業外学習・事後: 多和田葉子『「ふと」と『思わず』』の文章の読解。	
		2週	「言語とは何か」②内田樹「他者の言葉」		他者の言語・他の言語を学ぶ意義について、説明できる。 授業外学習・事後: 多和田葉子の「国境を越えることば」の読解。	
		3週	「言語とは何か」③内田樹「ことばとは何か」		言語の性質・機能について理解し、説明できる。 授業外学習・事後: 永井均の「マンガの哲学」の読解。	
		4週	「言語とは何か」④まとめ		言語とはどういうものか、整理してまとめることができる。 授業外学習・事後: レポート課題。	
		5週	藤原道綱母『蜻蛉日記』中巻の天禄2(971)年2月および6月の条①		『蜻蛉日記』の文学史的な知識について、説明できる。当該の場面の前後の夫妻の状況について、当時の「通ひ婚」の習俗も併せて、説明できる。当該場面の古語の意味を理解し、場面内容を説明できる。 授業外学習・事後: 筆者の歌「さむしろの～」の解釈(現代語訳)を調べる。	
		6週	藤原道綱母『蜻蛉日記』中巻の天禄2(971)年2月および6月の条②		なぜ筆者の「さむしろの」歌の語の解釈が問題になるのか、説明できる。「さむしろ」の「筵」とはどういうものか、さまざまな和歌の用例から理解し、説明できる。 授業外学習・事後: 「筵」の和歌の用例に類出する動詞を調べる。	

4thQ	7週	藤原道綱母『蜻蛉日記』中巻の天禄2(971)年2月および6月の条③	「筵」の属性について理解した上で、それを「敷く」行為や「返す」行為がどういう意味を持つのか、説明できる。活字本の底本の表記を確認した上で、通説とは異なる「おかむ」の解釈の可能性について、説明できる。 授業外学習・事後：「をく」という動詞の意味を調べておく。
	8週	藤原道綱母『蜻蛉日記』中巻の天禄2(971)年2月および6月の条④	筆者の「さむしろの」の歌が、どのような意味をもって詠まれていたのかを理解し、説明できる。 授業外学習・事後：レポート課題。
	9週	『六条斎院物語歌合』所収の『あやめうらやむ中納言』①	天喜三(1055)年五月三日に開催された『六条斎院物語歌合』の文学史的な意義について理解し、説明できる。この『歌合』に残された和歌と、このときに新作された物語作品の関係について理解し、説明できる。 授業外学習・事後：五月五日の節句とあやめ草の関係について調べておく。
	10週	『六条斎院物語歌合』所収の『あやめうらやむ中納言』②	「あやめ草」をめぐる当時の習俗について理解し、説明できる。散佚した物語『あやめうらやむ中納言』の復元する手掛かりとなる、「あやめぐさなべてのつまとみるよりはよどののこるねをたつねばや」の和歌の現代語訳ができる。 授業外学習・事後：「あやめ」と「うらやむ」の語句を有する和歌の用例を読んでおく。
	11週	『六条斎院物語歌合』所収の『あやめうらやむ中納言』③	散佚した物語の題名である、「あやめ(草)」を「うらやむ」ということはどういうことなのか。「あやめ」の属性の何を「うらやむ」のかについて、「あやめ」「うらやむ」の語句を有する他の和歌の用例から推測し、説明できる。 授業外学習・事後：題名の「うらやむ」と和歌の「～ばや」が、主人公とおぼしき「中納言」の心情を表現するものと考えたと、「羨望」と「願望」という「中納言」の「望み」を表していることになるが、この二つの「望み」はどのように関係しているのか、考えておく。
	12週	『六条斎院物語歌合』所収の『あやめうらやむ中納言』④	題名の「うらやむ」と和歌の「～ばや」から、主人公の「中納言」の心情を合理的に推測し、説明できる。「よどののこるね」と比較される、「なべてのつま」とはということか、他の和歌の用例から考えて、説明できる。 授業外学習・事後：草の「根」を「刈る」ことが、「掛詞」として含意するもうひとつの意味とは何か、考えてくる。
	13週	『六条斎院物語歌合』所収の『あやめうらやむ中納言』⑤	草の「根」を「刈る」と「振り」との関係について、他の用例から考えて、合理的な説明ができる。「なべてのつま」がなぜ否定的な意味を帯びるのか、説明できる。 授業外学習・事後：「よどののこるね」の部分か、「掛詞」として含意するもうひとつの意味とは何か、考えてくる。
	14週	『六条斎院物語歌合』所収の『あやめうらやむ中納言』⑥	「よどののこるね」とはということなのか、他の和歌の用例から考えて、説明できる。 授業外学習・事後：レポート課題。
	15週	まとめ/レポート課題提出	言語の機能や性質、古代のことばと現代のことばのありようの違いなどについて、説明できる。
	16週	レポート返却と講評	返却されたレポートとその講評から、現代のことばから失われつつあるものをどのようにしたら回復できるのかという問題について、自分なりの考えを持つことができる。

評価割合

	確認テスト	レポート	合計
総合評価割合	30	70	100
基礎的能力	30	70	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	環日本海文化論		
科目基礎情報							
科目番号	0047		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専2			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	高階秀爾『西洋美術史』、中澤敦夫・宮崎衣澄『暮らしの中のロシア・アイコン』						
担当教員	宮崎 衣澄						
到達目標							
西洋美術史におけるアイコン、ロシア文化におけるアイコンについて学習することにより、ロシア宗教・文化事情に関する理解を深める。また、日本への正教会伝道について学び、ロシアと日本の文化交流史に関する理解を深める。 J A B E Eの評価基準を満たすには、60点以上必要である。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	西洋美術史の流れとアイコンについて理解できている		西洋美術史の流れとアイコンについて、おおよそ理解できている		西洋美術史の流れとアイコンについて、理解できていない		
評価項目2	ロシア文化におけるアイコンについて理解できている		ロシア文化におけるアイコンについて大よそ理解できている		ロシア文化におけるアイコンについて理解できていない		
評価項目3	明治期の日露交流史について理解できている		明治期の日露交流史について大よそ理解できている		明治期の日露交流史について理解できていない		
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー A-1							
教育方法等							
概要	環日本海地域のうち、特にロシアに注目し、ロシアの宗教とその表象であるアイコンに焦点をあてる。アイコンを美術史の枠組みで捉えるだけでなく、ロシアの歴史・文化面から分析することにより、ロシアの宗教・文化事情に対する理解を深めることを目的とする。ロシア正教は明治期より日本で宣教活動を行っていることを踏まえ、日本における正教会についても触れ、日露文化交流史について学ぶ。						
授業の進め方・方法	講義および発表						
注意点	単位認定には、60点以上の評定が必要です。						
授業の属性・履修上の区分							
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	イントロダクション 美術史におけるアイコン	美術史におけるアイコンの歴史的発展について学習する			
		2週	美術史概論①	西洋美術史の流れを理解する			
		3週	美術史概論②	西洋美術史の流れを理解する			
		4週	美術史概論③	西洋美術史の流れを理解する			
		5週	美術史概論④	西洋美術史の流れを理解する			
		6週	美術史概論⑤	西洋美術史の流れを理解する			
		7週	美術史概論⑥	西欧美術史の流れを理解する			
		8週	美術館実習事前学習	美術館実習事前学習。美術館所蔵作品について学習する。			
	4thQ	9週	美術館実習	富山美術館にて実地研修を行い、作品についての理解を深める			
		10週	アートと街づくり	富山を中心に、アートによるまちづくりの事例について学ぶ			
		11週	ロシアと正教会	ロシア史における宗教について、正教会を中心に概観する			
		12週	ロシアとアイコン①	ロシア史における宗教・アイコンの役割と歴史について概観する			
		13週	ロシアとアイコン②	ロシア史における宗教・アイコンの役割と歴史について概観する			
		14週	日本の正教会	明治期にロシアから日本にもたらされた日本の正教会とその発展について学ぶ			
		15週	報告会	美術作品をとりあげて、発表を行う			
		16週	期末試験	学習内容が理解できているか確認する			
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	0	60	0	0	0	40	100
基礎的能力	0	20	0	0	0	20	40
専門的能力	0	20	0	0	0	10	30
分野横断的能力	0	20	0	0	0	10	30